

平成 22 年度第 7 回理事会次第

日 時 平成 22 年 12 月 5 日 (日) 9:30

会 場 千葉県労働者福祉センター401 会議室

1. 出席者及び資料の確認

2. 開会

3. 会長挨拶

4. 議 題

- (1) 各委員会報告事項に対する質疑 (事前送付資料によりご確認ください)
- (2) 議事(案)
 - 1. 社団法人千葉県社会福祉士会負担金規則にかかる配分委員会準備会委員について
 - 2. 社団法人千葉県社会福祉士会役員選出規則の改正 (案) について
 - 3. 新公益法人制度に対する対応について
- (3) その他

5. 閉会

<広報部会 報告資料>

日時	平成 22 年 12 月 1 日 (水) 19 時 30 分～22 時 40 分												
場所	あずみ苑井野(佐倉市井野)												
出席者(人数)	鈴木・山口利・森・岡田・香川・草間 (6名)												
<p>1, 組織率向上に向けた広報の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県社会福祉士会の加入率が高いが、広報紙にその要因があるのではないかと、との意見あり確認。明確な理由は不明であった。 ・ しかし、他県の広報を見ることは、広報し作成に当たり、参考になった。今後もインターネットで見られる都道府県士会については研究を行う。 <p>2, 発送作業に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで地域集会の世話人会に呼びかけ、地域のネットワークづくりの一助になれば、と各地域持ち回りで発送作業をしていたが、声かけしても対応できる状況にない。これまでの作業に参加した会員等にこれまでは謝礼もしていなかったが、今後参加者に 500 円分の図書カードを各一枚ずつ進呈することとしたい(部会員は除く)。 <p>3, 次年度のページ編成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一号に 1 本のペースで、『ちば社会福祉研究』論文 4 ページを掲載することを想定し、広報部会の編集会議では 12P の編成を準備する。 ・ 今年度同様、特集、トピックス、地域集会報告、研修報告、社会福祉士の輪、三団体リレーコラム、他の委員会報告、事務局便り、広報部会から、で記事の量を調整する。 <p>4, 次回の発送予定について</p> <table> <tr> <td>1 月 24 日</td> <td>原稿×切</td> </tr> <tr> <td>2 月 2 日 ~2 月 8 日</td> <td>1 次校正</td> </tr> <tr> <td>2 月 9 日 ~2 月 15 日</td> <td>2 次校正</td> </tr> <tr> <td>2 月 26 日</td> <td>入稿</td> </tr> <tr> <td>3 月 4 日</td> <td>最終入稿</td> </tr> <tr> <td>3 月 11 日以降</td> <td>発送作業開催</td> </tr> </table>		1 月 24 日	原稿×切	2 月 2 日 ~2 月 8 日	1 次校正	2 月 9 日 ~2 月 15 日	2 次校正	2 月 26 日	入稿	3 月 4 日	最終入稿	3 月 11 日以降	発送作業開催
1 月 24 日	原稿×切												
2 月 2 日 ~2 月 8 日	1 次校正												
2 月 9 日 ~2 月 15 日	2 次校正												
2 月 26 日	入稿												
3 月 4 日	最終入稿												
3 月 11 日以降	発送作業開催												

《第 75 号編集会議》 () 内は推定ページ数及び寄稿依頼の声掛け担当

- 【特集】人口減少傾向地域のコミュニティが抱える問題について
→山村・漁村・農村等それぞれで働く社会福祉士から (4P : 森、山口利)
- トピックス→障害者雇用の積極的な事業所の取り組み。(1~2P : 森→藪野)
- コラム～公益法人制度ってなんだろう? (0.5P : 鈴木)
- 社会福祉士の輪 (1P : 山口利→山口定)
- 地域集会 (1P : 森→習志野地区)
- リレーコラム (1P : 鈴木→MSW 協会) 三団体研修について
- 事務局だより(1P : 森→事務局)
- 独立型福祉士 (1P : 鈴木→川島理事)
- 広報部会から (1P : 松本)
- 【ちば社会福祉研究】 (4P : 鈴木)

<総務委員会>

【社会資源有効活用ワーキングチーム事前打合せ】

日時:平成 22 年 11 月 4 日(金) 19:30~21:30

場所:千葉県社会福祉士会 事務局

出席者:岡田、香川、高橋、瀧澤、山口

1. 顔合わせ

出席者以外では、企画部会からは森池、櫻井、広報部会からは古澤が参加予定。

事務局に、2名 板垣氏、松井氏から問合せがあった。

2. テーマの確認

野田氏からのアイデア応募用紙の内容、点と線でのワーキングチーム参加者募集の内容を確認。

①会の社会資源(実施事業など)②人材(会員)を、必要としている方に伝えるシステム作りをワーキングチームで事業化し進めていきたい。

3. システムづくり検討まえに誰からヒアリングをしたいか

総合相談委員会 ※その他にもワーキングチームの意見にあわせて調整

4. 今後のスケジュール

(12月前半) 第1回 ワーキングチーム ※終了後、懇親会

・テーマに向けての意見交換

・スケジュールの確認

・システムづくり検討まえに誰からヒアリングをしたいか検討

(1月半ば) 第2回 ワーキングチーム ※総合相談委員会の方などを含めて

(3月) 第3回 ワーキングチーム

(5月) 第4回 ワーキングチーム 事業のイメージ作り

(6月前半) 第5回 ワーキングチーム 事業概要作り

(7月前半) 第6回 ワーキングチーム システム骨組作り

(8月半ば) 第7回 ワーキングチーム 予算案作成

(9月) 第8回 ワーキングチーム 修正後事業概要、予算案確認

5. その他

広報活動活性化事業案募集要綱において、審査方法を理事会で行う二次審査で、優秀賞として認められたものを表彰することとなっていた。当初は、広報のアイデアを事業化し予算付けするものを優秀賞とするイメージであったが、想定していた内容よりも、事業化に時間のかかるアイデアだったため、本ワーキングチームでは、予算を理事会で図る時期は、来年度9月ころになりそうだ。

プロジェクトチームを立ち上げるところまで、アイデアの事業化が進んでいるので、次回の理事会で二次審査を行い、二つのアイデアを優秀賞として認められないか？

社団法人千葉県社会福祉士会 広報活動活性化事業案募集要綱

1 趣旨

社団法人千葉県社会福祉士会（以下「本会」という。）は、本会及び社会福祉士の活動のPR、本会の公益活動として社会福祉に関する知識及び技術の普及・啓発を図るため、会員から広報活動の活性化を実現させる事業案を募集する。

2 事業内容

- (1) 広報活動の活性化に向けた、実現可能な事業についてのアイデアを募集し、優秀なアイデアを採用する。
- (2) 採用されたアイデアについて総務委員会は必要に応じて提案者と協働の上、予算案や実施計画を作成し、理事会の承認を得て平成 22 年度以降の実施に向けて準備をすすめる。
- (3) 実行可能な事業案であれば随時実行する。

3 応募資格

社団法人千葉県社会福祉士会会員であること

4 募集

(1) 内容

- a. 会を周知するための広報の方法（例：社会福祉士を主人公にした小説・ドラマの制作等）
- b. 地域住民のためになる活動の内容（例：社会福祉士がいる場所マップを作る等）
- c. 会員のためになる活動の内容（例：会の「活用方法」マニュアルを作る等）

(2) 期間

平成 21 年 10 月 1 日から平成 21 年 11 月 15 日

(3) 応募方法

・本会事務局あてに所定の応募用紙を、郵送、FAX、メール、持参のいずれかにより提出する。

・応募書類は返却しない。採用されたアイデアの著作権は、主催者が公表・複製することができる。

(4) 提出先

社団法人千葉県社会福祉士会 事務局

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4 番 3 号 千葉県社会福祉センター 4 階

電話 043-238-2866 / FAX 043-238-2867 / E-mail office@cswhiba.com

5 審査

(1) 審査組織

社団法人千葉県社会福祉士会

(2) 審査方法

a. 一次審査

総務委員会において書類審査を行い、二次審査対象者を選出する。

b. 二次審査

総務委員会は、二次審査対象者と協働して、アイデアを事業化するためのプロジェクトチームのテーマを設定する。総務委員会は、そのテーマについて、採用選考を行い、三次審査対象者を選出する。

c. 三次審査

総務委員会は、三次審査対象者と協働して、プロジェクトチームを組織し、事業計画案を作成する。本会理事会において、事業計画案の採用選考を行う。事業計画案をどのように事業として活用するかは理事会で決定する。

(3) 審査基準

一次審査では、主に次の点を重視して審査を行う。

・発想が独創的で、広報活動の活性化に向け効果が期待できるものであること

二次審査では、上記に加えて、次の点を重視して審査を行う。

・公益性、継続性及び発展性を期待できるものであること。

三次審査では、上記に加えて、次の点を重視して審査を行う。

・アイデアの実現に向け、計画や推進体制、経費等について具体性があり、実現性が高いものであること

(4) 審査結果

審査の結果は、機関紙「点と線」及び千葉県社会福祉士会ホームページにて随時通知する。

6 表彰

二次審査まで決定されたものについては、優秀賞とする。

優秀賞 3点 (賞状・図書カード2千円)

※多少、変更する場合があります。

7 問い合わせ先

社団法人千葉県社会福祉士会 事務局

〒260-0026 千葉市中央区千葉港4番3号 千葉県社会福祉センター4階

電話 043-238-2866 FAX 043-238-2867

E-mail office@cswhiba.com

社団法人千葉県社会福祉士会 広報活動活性化事業案募集

採 点 表

(1) 一次審査 審査基準

- ・発想が独創的で、広報活動の活性化に向け効果が期待できるものであること

項目及びのポイント	配点
1 発想に独創性があるか	(小計40点)
① 現在、千葉県社会福祉士会の事業には類似したものがないか。	/ 10
② 内容・手法に、先駆性があり、千葉県社会福祉士会の魅力アップ等を図れるか。	/ 10
③ 提案事業の目的・目標は明確か。	/ 10
④ 実施可能な提案であるか。	/ 10
2 広報の活性化に向け効果が期待できるか	(小計60点)
① 千葉県社会福祉士会の周知できるよう十分に考えられているか。	/ 20
② 地域住民のためになるよう十分に考えられているか。	/ 20
③ 会員のためになるよう十分に考えられているか。	/ 20
一次審査合計	/ 100
上記の基準には当てはまらないが、特筆すべき点がある。	/ 20

合計 点

二次審査 審査基準

- ・公益性、継続性及び発展性を期待できるものであること。

項目及びのポイント	配点
1 公益性、継続性及び発展性を期待できるか	(小計100点)
① 公益性があるか?	/ 40
② 継続性があるか?	/ 30
③ 発展性が期待できるか?	/ 30
二次審査合計	/ 100
上記の基準には当てはまらないが、特筆すべき点がある。	/ 20

合計 _____ 点

三次審査 審査基準

- ・アイデアの実現に向け、計画や推進体制、経費等について具体性があり、実現性が高いものであること

項目及びのポイント	配点
1 具体性があり、実現性が高いか	(小計100点)
① 計画は実現できそうな内容か？	／ 30
② 計画の中で役割分担がはっきりしているか？	／ 20
③ 事業の目的・目標は計画の中で薄れてきていないか？	／ 20
④ 経費は効果に見合うか？	／ 30
三次審査合計	／ 100
上記の基準には当てはまらないが、特筆すべき点がある。	／ 20

合計 点

日時	平成 22 年 10 月 24 日 (日) 13 時 30 分～15 時 30 分
場所	み・まも～れ幸町
出席者(人数)	目黒・森・山口定・鈴木将 (文責)
<p>1. 災害時対応ワーキングチームの活動趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害が起きた際に「社会福祉士としてどのような活動が求められる」かを考え、「千葉県社会福祉士会としてどのような活動を行うべきか」について検討する。 <p>2. ワーキングチームの活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に社会福祉士が求められる役割とは何か、について有識者を招いての講義等により具体的な活動の内容のアウトラインを共通理解として持つ。 ・ 社会福祉士が取るべき行動についてガイドラインを作成し、実務の内容を明確化する。 ・ 会員に対して、災害時に実際に対応できるよう実働メンバーを募るとともに、会員全体に啓蒙啓発を行う（『点と線』の活用、地域集会への参加等）。 ・ 平時から、県社協や各市町村社協、ボランティア団体等とのネットワーク及びた都道府県の社会福祉士会とのネットワークを作ることを目指す。 <p>3. ワーキングチームへの参加呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の対応について具体的な活動を展開している関係機関を整理し、その機関に所属する、もしくは業務的に近接した仕事についている千葉県社会福祉士会会員及び準会員の他、参加に意欲を持つ関係者に、ワーキングチームへの参加を呼びかける。オブザーバー的立場として西條理事に参加依頼する。 ・ 具体的には、以下の通り <ol style="list-style-type: none"> ① 防災士については、アイデア提案者であり防災士の小村さんに依頼。 ② 社協については、社協勤務の山崎さんに依頼→参加確認5名。 ③ 独立型社会福祉士については、担当の川島理事を通して依頼。 ④ 地域包括支援センターについては、部会の宮間さんに依頼→参加確認1名。 ⑤ 中核地域生活支援センターについては、中核勤務の森池理事、大戸さん、渋沢さんに依頼。 ⑥ 小村さんを通じて、淑徳大学の学生に声をかけることも検討。 <p>4. 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月下旬～11月に3. のメンバーに声かけ ・ 12月中に3. の内参加可能なメンバーと打ち合わせ・意見交換 ・ 有識者を呼んでの講演会を開催し、社会福祉士の役割の確認（今年度中） 	

地域包括支援センター一部会報告事項

報告事項

① 千葉県高齢者虐待対策研修会

11/24、12/1、12/8 虐待対応ソーシャルワークモデル標準研修の内容で研修を実施。

11/24 は日本社会福祉士会より派遣された講師の講義があった。

来年度の予算は今年度より増額の予定。

② 高齢者虐待対応専門職チーム

報告会を 12 月に予定していたが日程が合わず、1 月に延期の予定。

③ 地域包括支援センター社会福祉士交流会

12 月 11 日 PM2～松戸市民劇場 現役の警察官の講演を予定。

相談事業部会報告事項

平成 22 年度 第 1 回 相談事業部会 委員会

議事録

場所:千葉県社会福祉士会 事務局

時間:平成 22 年 11 月 6 日 13:30~16:00

参加者:辻村、森澤、久保田、山本、小倉、西沢

議題

1、無料相談事業 報告

・平成 22 年度 第 1、2 回就職フェアの報告

第 1 回 7 月 17 日(土) 中田、西沢が参加 13:00~16:00

13 件、16 人の方が来られた。多くの質問は国家試験の受験勉強や合格方法について

第 2 回 10 月 30 日(土)辻村、森澤が参加 13:00~16:00

・習志野市福祉ふれあい祭り 報告

10 月 23 日(土) 久保田、山本が参加 9:00~16:00

会場は外、祭りという雰囲気の中で福祉相談はなかなか馴染みづらい。のぼり旗、チラシ、POPなどを用意したが、相談は 2 件。詳細は添付の通り。

露店が並ぶなか、福祉無料相談では人が集まらず、PRに繋がらない。

地域集会の延長や地元の社会福祉士の方々に啓発活動をしてもらえると地域の顔なじみとしてやりやすいのでは？

社会福祉士を語ろうという会でも良いのでは？

・淑徳大学キャリアフェスタ 報告

10 月 16 日(土) 山本が参加 13:45~17:30 淑徳大学 千葉キャンパス

主催者側に当ブースの趣旨を伝える、学生はあまり資格に対してこだわっておらず、記念受験という言葉が目立った、学生は福祉の職域をほとんど知らない。

・福祉の就職ガイダンス 報告

11 月 27 日(土)PM 予定 西沢が参加

今後も依頼があれば人選には対応する。

2、保護観察所連絡協議会について

地域定着支援センターが 10 月 1 日に開所したので、今後活動はないと思われる。

3、悩める福祉士サポート事業

広報部会の依頼で紹介の記事を西沢がA4、1枚で作成した。

11月号の広報誌で掲載予定。そろそろ会員の手元に広報誌が届く予定となっている。

初の依頼が来るかもしれないため、各人、準備を整えてもらう。

会の中に、ばあとなあの電話相談。新しい企画でも類似した事業が考えられている。また会の外でもメンタルヘルスを謳う事業は展開されている。総合的な相談窓口として一度、整理してみてもどうか？

4、研修会 企画について

時期は1月下旬～2月。内容は「コーチング」、「上司の部下の関係」などについて

場所は社会福祉センター、時間はPM 3時間ほど。

講師については久保田さん、小倉さんの心当たりを探る。

CMIについては会のHP、MLの活用。広報誌。各資源の広報誌に掲載可能であれば依頼。福祉関係のML。各委員の地元の広報誌に掲載可能であれば、依頼する。

5、旅費・手当支給と申請書の記入

中田さん 就職フェア

辻村さん 就職フェア 委員会

森澤さん 就職フェア 委員会

久保田さん 習志野福祉祭り 委員会

山本さん 淑徳キャリアフェス、習志野福祉祭り、委員会

小倉さん 委員会

西沢 就職フェア 委員会

を処理し、事務局に申請する。

6、その他

コーチング研修について

日 時:平成 23 年 1 月 23 日(日)

午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分 (受付:午後 1 時 00 分～)

場 所:千葉県社会福祉センター 4F 会議室

講 師:片柳 光昭 様

横浜市総合保健医療センター 精神科デイケア係長

精神保健福祉士 社会福祉士 財団法人生涯学習開発財団認定コーチ

横浜メンタルサービスネットワーク会員

一般デイケアや復職プログラム(リワーク)における当事者に対する精神科リハビリテーションを実践。

またまたコーチングを用いた組織管理やスタッフの人材育成に関する講演なども行う

参加費:会員 1500 円 非会員 2000 円

平成 22 年度 介護サービス情報公表部会

11 月 責任者会議 議事次第

開催日時 : 平成 22 年 11 月 26 日 (金) 19:00~20:30

場 所 : 千葉県社会福祉センター 4 階

参加者 : 川島隆太・佐々木博光・富樫裕子・向縄紀子・山口美恵子・櫻井勉

欠席者 : 丸 晶・耀英明

1. 各地区からの報告

東葛~11/24 地区会議開催、調査員アンケートについて質問あり→各自で出していただく旨を伝える。調査情報の記入方法を事業所が間違っており、訂正印で対応した。居宅介護支援の毎月の訪問の経過確認について、6 か月間は必要ではないかとのことだった。

千葉~11/24 地区会議開催、新規調査員 12 月から開始、事業所の自己評価についての質問・事業所がコピーでもよいと主張していたということがあったそうだが、従来通りの対応で行っていただくよう伝えた。事前に事業所に調査の内容を県公表センターで確認してもらうことで、スムーズに調査が行われたことがあったとのことだった。

東総~11/22 地区会議開催、下記 2 調査項目の解釈について話題が挙がった。

南部~11/22 地区会議開催、予定確認、調査についての問題等無く、実施されている。

2. 調査項目の解釈について

東総地区 山口さんより

訪問リハビリテーション 調査番号 47 について、「調査番号 47 ですが、従事者が 1 名のみで情報の共有自体がないためどう判断したらよいか現地では保留としました。「該当なし」がないため、「なし」になるのでしょうか？

→山口さんより「千葉県公表センターへ確認、センターから千葉県へ確認があったが、訪問リハビリテーションのように、併設が原則のサービスについては、本体との会議録や情報共有があれば可」とのことだった。

3. その他

- ・調査情報に通し番号がついたことにより行いやすくなった。
- ・領収書（高速道路や紙データの郵送代などについて）添付提出を徹底して頂きたい。
- ・交通費を請求する際、特に公共交通機関について、経路を掲載して頂きたい。